報道関係者各位

2026年11月吉日
日本財団DIVERSITY IN THE ARTS

Press Release

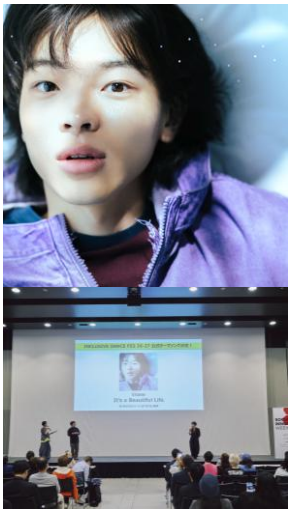
「INCLUSIVE DANCE FES 26-27」記者発表会を開催
テーマソングはimaseさん「It's a Beautiful Life」に決定！
渋谷区 長谷部 健区長も登壇して応援

～障害の有無や身体の違いを、表現の豊かさに変えるダンスを披露
決勝戦は2027年1月30日（土）・31日（日）、LINE CUBE SHIBUYAで開催～

一般財団法人 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS（理事長：前田 晃）は、2027年1月30日（土）・31日（日）に「LINE CUBE SHIBUYA」（東京・渋谷）で開催するダンスフェス「INCLUSIVE DANCE FES 26-27（インクルーシブダンスフェス ニーロク ニーナナ）」の記者発表会を、2026年11月4日（水）、渋谷ヒカリエ 9F ホールAにて開催しました。
発表会では、イベントアンバサダーのMiyuさん、DAIKIさん、TAICHI aka Tiny Twiggzさんと、デフダンサーや車いすユーザーのダンサーなど、今のダンスシーンで活躍するダンサーたちが共演するオープニングパフォーマンスを披露。続いて、渋谷区の長谷部 健区長が登壇し、この取り組みへの応援メッセージを寄せました。また、共創パートナーとしてトヨタ自動株式会社、株式会社乃村工藝社との取り組みを発表したほか、テーマソングがimaseさんの「It's a Beautiful Life」に決定したことも明らかにされました。



■テーマソングはimaseさん「It's a Beautiful Life」に決定！



本発表会では、INCLUSIVE DANCE FES 26-27のテーマソングを発表。
「ダンスには、『踊りたくなる音楽』がないと成立しない」という想いから選ばれたのは、
imaseさんの「It's a Beautiful Life」です。

約1年間の活動休止を経て10月2日にリリースされたEP「はてな」に収録された楽曲で、
企画統括プロデューサーの荒木 理恵子（株式会社ODORIBA 代表取締役）は
「趣旨にピッタリはまる歌詞と、どんなジャンルも踊りやすいテンポ感で、
最初にこの楽曲を聴いた時は、勝手に運命を感じてしまいました」と語りました。

会場では、imaseさんからのビデオメッセージも上映され、「この度、僕の新曲『It's a Beautiful Life』がINCLUSIVE DANCE FES 26-27のテーマソングに決定しました。ありがとうございます。僕が休止中にどんな生活を送り、その中で何が美しく、何が豊かなのかを歌った楽曲です。すごくダンサブルな曲なので、ぜひ自由に踊ってください。SNSのキャンペーンもあると聞いているので、たくさん聴いて踊っていただけたら嬉しいです。」とコメントが寄せられました。

テーマソング「It's a Beautiful Life」を使用したSNSキャンペーン「#ゴチャ踊れダンス」リレーが、本日よりTikTokとInstagramでスタート。
共通の振付とフリースタイルを組み合わせ、年齢やジャンル、スタイル、障害の有無を超えて、一人ひとりが自分らしいダンスを披露できる企画です。
TikTokでは、キャンペーン向けの音源「It's a Beautiful Life ゴチャ踊れVer.」も配信されています。本キャンペーンの参加者の中から、魅力的なパフォーマンスを披露したダンサーには、スペシャルダンスビデオに出演するチャンスも用意。さまざまな個性や表現が集まった一つの映像を制作し、2027年1月31日（日）開催の「INCLUSIVE DANCE FES 26-27」本番で初公開する予定です。楽曲を通じて、誰もが自由に踊る楽しさや、人と人とがつながる喜びを発信していきます。詳しくはイベント公式サイトおよび公式Instagramをご覧ください。

TikTok配信音源はこちらhttps://www.tiktok.com/share/music/7701544306327717894

■「INCLUSIVE DANCE FES 26-27」について



誰もがダンスを通じて自己表現・自己実現できる環境づくり」を目指すプロジェクトです。

「ゴチャ踊れ。」をコンセプトに、障害の有無、世代、ジャンル、地域などの違いを超え、ダンスを通じて人と人が出会い、表現し合う場を全国へ広げていきます。

キービジュアルには、アンバサダーのMiyu、DAIKI（SOCIAL WORKEEERZ）、TAICHI aka Tiny Twiggz（Twiggz Fam）に加え、高校生デフダンサーのMAHO、車椅子のLOCKダンサーKO-MEI、ダウン症のあるダンサーHARUKA、カリスマキッズダンサーのShiN、片足と杖を駆使したスタイルで踊るBBOYガゼラコーセーらが集結しました。

全国各地で広がるインクルーシブダンスシーンを表現しています。
今後も、出演者やコンテンツの情報を随時発表していく予定です。ぜひご注目ください。

【INCLUSIVE DANCE FES 26-27 開催概要】

日程：2027年1月30日（土）・31日（日）

会場：LINE CUBE SHIBUYA（東京都渋谷区宇田川町1-1）ほか、渋谷区周辺施設

内容：「INCLUSIVE DANCE CONTEST 26-27」全国大会、2on2 BATTLE、WORKSHOP、NETWORKINGを予定

チケット：11月7日（土）10:00より販売開始 ※1月31日 LINE CUBE SHIBUYA公演のみ

主催：一般財団法人 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS

後援：渋谷区 / 一般社団法人 渋谷未来デザイン

企画統括：株式会社ODORIBA

企画制作：（札幌）OH ALL!!北海道インクルーシブダンス協会 /（東京）株式会社ODORIBA, 一般社団法人SOCIAL WORKEEERZ /（名古屋）株式会社ジョイントワークス, ダンスサークルJOY☆UP /（大阪）一般社団法人日本アダプテッドダンス協会 /（福岡）ドットカラーダンススタジオ, EN325

公式サイト：https://inclusivedancefes.com/

公式SNS：@inclusivedancefes（Instagram / TikTok）

■ちがいを表現に。多彩なダンサーによるオープニングパフォーマンス

発表会は、言葉よりもダンスの力を感じてもらうオープニングショーケースで幕を開けました。ステージには、イベントのキービジュアルにも出演するアンバサダーのMiyuさん、DAIKIさん、TAICHI aka Tiny Twiggzさんに加え、全国から駆けつけたBBOYガゼラコーセーさん、HARUKAさん、KO-MEIさん、MAHOさん、ShiNさんが登場。
デフダンサーのMAHOさん、車いすユーザーのKO-MEIさんをはじめ、それぞれ異なる身体や表現を持つダンサーたちが、互いの違いを生かしながら、ひとつのステージでパフォーマンスを披露しました。なお、発表会場には手話通訳が入り、来場者は手元の端末でリアルタイム文字おこしを確認できるなど、アクセシビリティにも配慮した形で行われました。






■主催・企画統括プロデューサーがプロジェクトの想いとフェスの特徴を説明

日本財団DIVERSITY IN THE ARTS プロジェクト統括 朝重 龍太は「2019年、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、『True Colors Festival』を開催しました。その中で、障害のある方もない方も一緒にダンスに取り組み、ステージをつくり上げる活動を行ってきました。そうした経験を通じて、ダンスには誰もが一緒に楽しみ、つながることのできる大きな可能性があると感じました。音楽に合わせて踊ることは、必ずしも決まった振り付けを踊ることだけではありません。リズムに合わせて身体を揺らすだけでも、誰もが自由に参加できます。ダンスを通じて、より多くの人がつながる機会を全国に広げていきたいと考えています」と語り、本プロジェクトが始まった背景として、2019年の「True Colors Festival」での取り組みや、ダンスを通じて誰もが一緒に楽しみ、つながることのできる可能性を感じたことを紹介しました。



続いて、企画統括プロデューサーの荒木 理恵子（株式会社ODORIBA 代表取締役）が、コンテスト・バトル・ワークショップ・ネットワーキングの4つの柱で構成されるフェスの特徴を紹介。最大の特徴は、コンテスト・バトルともに「障害のある方、ない方が1つのチームで競い合う」ことで、「お互いの違いを活かして、一緒に新しいクリエイティブを生み出すことが最も評価される場にしたい」と語りました。



コンテストは全国で予選を行い、全国大会は賞金総額150万円。
ゲストショーケースやゲストバトラーにも、日本のダンスシーンを牽引する世界的ダンサーが続々登場する予定で、「ダンス界を挙げて、このムーブメントを広げていきたい」と意気込みました。

また、会場のLINE CUBE SHIBUYAでは、車いす席の大幅な拡充、介助で同行する方の入場無料、ステージ上の手話通訳とスクリーンでのリアルタイム字幕、手話・字幕が見やすい席やカームダウンスペースの設置など、さまざまなアクセシビリティを用意。

手話通訳者の橋本 一郎さんの協力による手話通訳の人材育成プロジェクトも誕生し、ボランティア「手話サポーター」がリハーサルの段階からデフダンサーをサポートしていることも紹介されました。

■渋谷区長も登壇して応援！渋谷から、全国5都市でムーブメントを盛り上げ

発表会の中盤では、札幌・大阪・名古屋・福岡・東京の各地でインクルーシブダンスの活動に取り組むオーガナイザーが登壇。5都市で予選大会が開催されており、東京・渋谷だけでなく、全国で盛り上がっているムーブメントであることが紹介されました。札幌からは、OH ALL!!北海道インクルーシブダンス協会代表／スタジオJam Glad代表の南 愛佳さん、大阪からは、一般社団法人日本アダプテッドダンス協会代表の高橋 俊二さんと松野 稜さん、名古屋からは、株式会社ジョイントワークス代表／パイナップルスタジオ代表の高橋 純一郎さん、福岡からは、ドットカラーダンススタジオ代表の浦志 亮介さんとEN325主宰の安武 みつこさん、そして東京からは、一般社団法人SOCIAL WORKEEERZ副代表のYU-Riさんが登壇し、5都市のキーパーソンが勢ぞろいしました。

続いて、本イベントを後援する渋谷区の長谷部 健区長が登壇。渋谷区が掲げる「ちがいを ちからに 変える街。」という未来像にも通じる取り組みとして、本プロジェクトへの期待を語りました。「障害の有無や国籍、趣味嗜好などにかかわらず、さまざまな人が混ざり合い、共に過ごすことが渋谷の強み。障害のある方もない方も一緒に楽しむ姿が、この街の日常の風景になっていくことが大切だと思います。渋谷から、そうした新しい価値や文化を発信していきたい」と、インクルーシブな取り組みを街全体に広げていくことへの思いを述べました。

その後、アンバサダー3名も加わり、長谷部区長との対談を実施。Miyuさんは、今年7月に渋谷区立上原小学校の「シブヤ未来科」で実施したインクルーシブダンスの体験授業を紹介。障害のある方もない方も一緒に踊るだけでなく、身体の動きに制約を設ける体験などを通じて、子どもたちが互いの違いを知る機会になったと振り返り、今後も渋谷区内の小学校で定期的に開催できることを提案しました。これを受け、長谷部区長は、子どもの頃から障害のある方とない方が自然に触れ合い、互いを知る機会を持つことの大切さに言及。ダンスは、年齢や障害の有無にかかわらず誰もが身体を動かして楽しめることから、こうした体験を広げていきたいと期待を寄せました。また、DAIKIさんは、障害のある方もない方も一緒にダンスレッスンを受ける姿が、誰もが目にする日常の風景になることを目指し、継続的に活動できる拠点の必要性を提案。

これに対し長谷部区長は、ストリートカルチャーの拠点として整備された「代々木公園 BE STAGE」などを例に挙げながら、誰もが見える場所で一緒に踊り、練習できる環境づくりについて前向きな考えを示しました。さらに、TAICHIさんは、自身が取り組むダンスジャンル「KRUMP（クランプ）」をより多くの人に広めたいという思いや、2029年に活動20周年を迎える際には代々木体育館で世界大会を開催したいという目標を披露。長谷部区長も、渋谷区がパラスポーツの大会や選手支援に取り組んできた経験に触れ、行政としても活動の場や大会開催の機会を提供することで、ダンスを通じた新たなムーブメントを後押ししていきたいと語りました。
また、Miyuさんがディレクターを務める「2on2 ゴチャ踊れ！BATTLE」についても情報を解禁。障害のあるダンサーが参加できる予選を実施し、選出された参加者がゲストバトラーと即興ペアを組んでバトルに挑むという、従来のダンスバトルとは異なる仕組みを説明しました。

対談の最後に、長谷部区長は「多くの人が認め合い、混ざり合うことで、新しい価値や文化を発信してきた渋谷にぴったりのイベント。
ここからまた新しい価値や文化を発信していってほしい」と、本大会への期待と応援のメッセージを送りました。





■共創パートナーを発表：トヨタ自動車・乃村工藝社との取り組み

荒木より、2027年1月の開催に向けた共創パートナー2社との取り組みが紹介されました。

●トヨタ自動車株式会社（先進デザイン開発室）
モビリティ「meシリーズ」が、1月31日のINCLUSIVE DANCE FESのステージに参加します。「meシリーズ」は、すべての「行きたい」を叶えたいという想いで開発されたモビリティで、「いすのひとつ先へ」をコンセプトにした4足歩行モビリティ「walk me」、重心移動だけで動かせる「boost me」、アウトドアを想定した電動いす「challenge me」の3種類。ダンサーの表現とモビリティが組み合わさったステージを披露する予定です。

●株式会社乃村工藝社
空間の総合プロデュース企業として、「好きな場所へ、行きたい場所へ。行きにくさを理由に、外出や体験をあきらめない」という想いのもと開発した、アートと融合したデザインのモバイル型「カームダウンブース」を、会場のLINE CUBE SHIBUYAに設置。周囲の刺激から離れて心身を落ち着かせられる空間として、年齢や障害の有無にかかわらず誰もが利用でき、本フェスでは実証実験の場として活用されます。

「ゴチャ踊れ。」を体現するダンサーたちのパフォーマンスと、全国5都市・共創パートナーの顔ぶれがそろい、本イベントの広がりを強く印象づける発表会となりました。INCLUSIVE DANCE FES 26-27は、2027年1月30日（土）・31日（日）にLINE CUBE SHIBUYAで開催。チケットは11月7日（土）10:00より販売開始します。ぜひご期待ください。